

第14期（令和3年度）事業報告書

特定非営利活動法人子どもの環境を守る会Jワールド

令和3年4月1日～令和4年3月31日

第14期事業報告書（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

目次

ページ	
1～6	事業の成果 (令和3年度)
7～8	事業の実施に関する事項 (令和3年度)
9	令和4年度【計画】
10	Jワールド 会員・賛助会員 推移
別紙	第14期決算報告書

令和3年度 特定非営利活動に係る事業報告書（第14期）

千葉県松戸市新松戸四丁目 257 番地の 1 ニューホームズマンション 1 階
特定非営利活動法人子どもの環境を守る会 J ワールド

理事長 三浦 輝江

1 事業の成果

住友生命保険相互会社 第15回「未来を強くする子育てプロジェクト」受賞

住友生命保険相互会社（以下、住友生命）が主催する第15回「未来を強くする子育てプロジェクト」の「子育て支援活動の表彰」部門において、当法人はスミセイ未来賞（対象10団体）に選出いただいた。（応募総数211組）

「未来を強くする子育てプロジェクト」は、住友生命が2007年より、より良い子育ての環境整備に向けて取り組んでいるプロジェクトである。当法人は「子育て支援活動」において、子どもの学習支援事業、青少年のための居場所づくりとなる「ユースペース」、自立支援のための「リバちい」事業、および子育てセミナーをはじめとする子育て支援事業等、広く子育てのための事業を開拓し、成果を上げていることが評価され、受賞のはこびとなった。

選考の過程を通して、改めて私たちの歩みを客観的に振り返る機会となった。いつも支えてくださる支援者の方や、ボランティアの方あってこそこの成果だと実感している。

第6回子供の未来応援基金（未来応援ネットワーク事業）採択

当法人は、第6回子供の未来応援基金（未来応援ネットワーク事業）に採択いただいた。①計画性、②連携とその効果、③戦略的な広報、④継続性が評価されての結果となった。この事業は、貧困の連鎖を断ち切り、子どもたちが夢と希望を持って成長していくようにと、子どもの貧困対策を進める環境整備のため、政府が主導し、独立行政法人福祉医療機構が支援金を交付・管理されている。

「リバちい」事業は特に、2021年9月で休眠預金による助成が終了して独自事業として運営しており、継続が厳しい状況での採択となり、感謝であった。必要経費を全てまかなうことはできないが、利用している一人ひとりの方を継続して支援していく道が開けたみなさまからの温かいご支援を合わせ、課題を抱えた家庭の悩みが解消され、自立していくように、「リバちい」を推進していく。

リバちい事業

・休眠預金等活用における新型コロナウイルス対応緊急助成で2021年1月に開所したが、4月からは利用者が段々と増え始め、8月には10組の家庭の子どもたちが利用するになった。リバちい事業を通して、松戸市子ども家庭相談課や教育研究所との連携が始まり、多数の利用者が送られ、より事業を展開しやすい体制が整えられたことは喜ばしいことであった。

・不登校になっていた児童が当事業を継続的に利用しているが、それ自体が学校にとっては大きな前進であるとのことで、当事業での利用を出席日数としてカウントする、という旨を校長から連絡を受け、学校からの信頼も増している。また、松戸市教育長から直々に依頼される利用者もいて、松戸市教育委員会からの当事業への信頼も強まっている。

・保護者への相談業務を実施しているが、業務という枠組みを超えて保護者からの信頼関係が構築され、他団体よりも信頼していることを伝えてくださる方もいた。また、保護者からの理解が得られ、個別訪問での学習支援を実施できたり、役所手続きなどの同行支援も実施できたりするケースが出てきている。

・リバちいでの個別支援から、大家族体験ができるユースペースへの連携や、ユースがボランティアで関わるなど、少しずつ集団での居場所に入っていくことができるようプログラムを策定して実施し、利用者の状況の改善が見られている。

ユース事業

- ・ユースペースは放課後の中高生の居場所として開催した。ボードゲーム、バンド、勉強、心の相談など自由に参加。中高生にとって大切な居場所となっている。
- ・2014年から行われている「あなたは高価で尊い存在」がテーマの出前授業「自己肯定感を高める授業」を、松戸市立第三中学校（9月14・15日の二日間）と、松戸市立牧野原中学校（6月16日と10月19日の二度にわたって）で1年生を対象に行った。
- ・授業後のアンケートには、「自分のそのまま、ありのままが素敵だということ、自分の存在が大切なこと。そんなことを考えたことがなく聞いてびっくりだったけど、自分の大きさがわかった等の回答があった。
- ・ユースペースで育った高大生数名が、松戸市中高生支援事業ゲットユアドリームでファシリテーターとして活躍、また学習支援事業でのボランティアスタッフとして活躍した。

ゲットユアドリーム事業（松戸市委託事業）

- ・ゲットユアドリームは、松戸市中高生支援事業として委託されている。
- ・2回のゲットユアドリーム（当初6回の予定が4回は新型コロナウイルス感染拡大防止により開催中止）で、のべ18名（六実中学校：10名・旭町中学校8名、重複あり）の講師の方々にお話しいただき、様々な価値観や職業観に触れ、将来について考える場を提供できた。
- ・今年度、子どもわかもの課委託事業として新たに2校（六実中学校・常盤平中学校）が開催の運びとなつたが、1校は開催中止（常盤平中学校）。
- ・コロナ感染対策の中ではあったが、1教室に1講師で10数名の生徒たちが講師の話を聞く環境ならば大丈夫であるという学校側の判断で開催できた。
- ・今回も学校と連携したことにより、より多くの中学生たちに将来について考える機会を提供することができ、ほとんどの生徒がより将来について考えることができたと回答した。

松戸市子どもの学習支援事業（松戸市委託事業）

＜学習面＞

新型コロナウィルスの影響で時間を短縮したり、学校閉鎖が続き、利用者が減ったりする状況が続いた。昨年度に引き続き、利用者のカウンセリング、保護者に家で利用者の様子を聞いたり、ご家庭を訪問したりして、コミュニケーションが途絶えることのないよう留意した。

夏と冬に行っていた勉強合宿等の行事は、「受験生限定」「時間短縮」といった対応で、3密を避け規模を大幅に縮小して実施した。

受験生たちには非常に厳しい条件の中での受験となつたが、無事に乗り越えることが出来た。

＜居場所づくり＞

毎回休憩時間に、一人一人が安心できる場所となるためのルールを必ず読み上げ、利用者に守ってもらう取り組みを継続実施。生徒自らが読み上げてくれる機会も定着した。生徒が自分たちの居場所を作るという意識付けによいきっかけとなっている。

イベントとしては、12月クリスマス会、3月に卒業パーティを3密を避け実施した。飲食などは出来ないにも関わらず、多くの生徒が参加してくれた。ゲームやネットなどの娯楽がある一方で、リアルの人間関係で触れ合える機会にニーズがあると感じ、感染対策に十分注意しながら子どもたちに機会提供を図ることの大切さをスタッフが実感した。

今年度もSNS、インターネット、ゲーム、コミュニケーションスキルや就職について等々、様々な分野に関して、昨年に引き続き自立に役立つ情報を休憩時間に提供した。

特に自己肯定感を持つことが出来るような話題や、会話を心掛けてスタッフが関わってきた。スタッフが「おかえり、行ってらっしゃい」の声掛けを徹底することで、利用する生

徒側からただいま返事が返ってくるようになった。また、以前の利用者が、顔を見せに来てくれることもあり、いつでも帰ってくることのできる居場所があると感じてくれたのではないか。

コロナ禍で学校だけでなく、行くことのできる場所が減ったりする中で、学習面に加え、精神的なよりどころとして居場所の役割と比重がますます大きくなってきていると痛感した一年だった。

中高生の居場所づくり事業（松戸市委託事業・青少年プラザ）

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大のため、居場所内の感染症対策や利用時間短縮等の対応をして居場所を開催した。コロナ禍で外出や身体を動かす機会が減っている学生が多く、中でも体育館の利用は人気だった。

学生たちの口コミで居場所の情報が広がり、コロナが一時収まっていた12月には1回に50名近くの学生が体育館を利用した。1月に入り、青少年会館近隣の学校で学級閉鎖や学年閉鎖をする学校が多く出て来たため、それに伴い利用人数も減少した。

松戸市地域子ども・子育て支援事業（松戸市委託事業）

〈おやこ DE 広場旭町〉

- ・新型コロナウイルス感染症のため、2021年1月～11月24日、2022年1月24日～3月21日は、一回3組、一日2回の完全予約制で広場を開催した。
- ・イースターやクリスマスのイベントは、予約制で、午前午後の一日2回1週間行い、利用者さんや、以前同じ建物で交流のあった社会福祉法人永春会の方、シルバー人材センターのボランティア部の方が協力して下さり。高齢者との交流や、地域の方との交流ができた。
- ・フォトコーナーや工作など、利用者が楽しめる企画を年間通して実施した。
- ・0歳児の広場は、初めての方が利用しやすいように、継続して開催した。
- ・利用者の状況としては、保育園、保育所を利用する共働き家庭がさらに増え、1歳から預ける家庭が増えているため0歳児が最も多く利用している。そのため、広場の利用期間も短くなっている。
- ・感染症対策として、非接触型のハンドソープディスペンサーや、大型加湿器を設置した。

〈子育てコーディネーター〉

- ・相談としては、離乳食を始めるにあたっての相談やどのくらいの量がいいのかなどの離乳食に関する相談、歯磨きについての相談、また夜泣きに関する相談など、子育てに関する様々な相談があり、働くことを希望している方からは保育園入園に関わることや保育園選びについての相談があった。
- ・今年度はシルバー人材センターの高齢者の方が積極的にイベントに協力してくださり、新たな連携が始まった。
- ・ダブルケアをしている家庭につながるため、馬橋西包括支援センターとの連携を継続している。

子育て支援事業

(子育てセミナー)

- ・コロナの状況もあり、対面で話し、交流する機会が大幅減少した。しかし、このような時期だからこそ、事業を継続し、子育て世代が孤立しないよう、ZoomによるOnline 発信および来会どちらも可能なハイブリッド形式を取り入れることとした。来会を希望される場合も、人数制限、会場の換気、三密対策など、安全を期し利用者が安心できるよう配慮した。
- ・今年度も各小学校の家庭教育学級で開催（八ヶ崎小学校、殿平賀小学校）に加え、松戸市生涯学習部社会教育課主催の Matsudo child-raising class (MCR) でバウンダリー講座をJワールドからオンライン配信し、松戸市各地の小学校の保護者の参加があった。
- ・利用者からは「久しぶりに人と話す時間が持てて良かった」という意見が多数聞かれており、機会提供の重要性を改めて実感した。

(こひつじリトミック)

今年度もコロナウィルスの影響で、会場での参加者がなかった。そのため「公園でできないか」と考え出かけて行き、公園に来ている親子と手遊びをして交流を持つことができた。コロナ禍で親子の交流の場所が少なく、公園で手遊びやお話をすると中で、喜んでくださる方が多かった。公園から会場に来られる方もおり、下半期から徐々に室内でのリトミックにも参加者が戻ってきて、3密を避けながら、活動することができた。

普及啓蒙事業

- ・休眠預金活用『新型コロナウイルス対応緊急支援助成』の一環でファンドレイジングに取り組み、主に Facebook を密に更新し、情報発信を心がけた。その結果、フォロワーが 10%強増加し、投稿の閲覧者も最大で 100%程度増加するなど大きな効果があつた。また、地域の個人事業主との関係が深まり、寄付を頂く方が増えた。
- ・オンラインでのトークイベントを開催した、全国各地から参加してくださる方がいらっしゃり、全国へと「リバちい」事業を中心として Jワールドの居場所づくり活動を知らせることができた。オンラインイベントは YouTube でアーカイブ配信し、行政の方々も多く閲覧いただき、Jワールドの取り組みを広報することができた。また関連してクラウドファンディングを実施し、全国の方々から支援をいただいた。
- ・その他として、「リバちい」事業が地域新聞で取り上げられたり、大学生の卒業論文の研究テーマとして Jワールドが複数人から取り上げられたりするなど、学術面でも Jワールドの取り組みが注目されている。

2. 事業の実施に関する事項 第14期

事業名	事業内容	実施日	実施場所	従事者の平均人数	受益対象者の範囲および人数	支出額(千円)
① ユース事業	中高生の居場所の開催	毎月 20回 程度	SRCビル 2F 多目的ホール	2人	中高生 のべ 1,074人 (前年+90人)	13
② ゲットユアドリーム事業	様々な職業についている人生の先輩から話を聞き、将来について考えるワークショップの開催。	年6校	松戸市立の中学校 (今年度は、コロナにより2校のみ開催)	20人	中学生 2校 285名 (うち3名web参加あり)	925
③ 松戸市中高生の居場所づくり事業	中高生の見守りを行い、必要に応じ学習相談や進路相談に応じる。	毎週 金曜日	松戸市青少年会館 (1Fロビー、3F和室および体育館)	3人	のべ 1,485人 (前年+549人)	1,169
④ 子育て支援事業 (リトミック)	子どもが心身共に自立した大人になるための企画・運営(リズム体操など)	月1回 不定期	SRCビル 2F 多目的ホール	4人	未就園児およびその保護者のべ 16名	73
⑤ 子育て支援事業 (子育てセミナー)	バウンダリーについての講演会や研修会を開催。 カウンセリングを含む。	月1回 金曜日	SRCビル 2F 多目的ホール および3F	23人	松戸市及び近隣の市民(49名) ZOOM 参加者(39名) (前年+31名)	7
⑥ Jボランティア事業	中学・高校、大学生を対象としたボランティア活動。	随時	SRCビル 2F オンラインも利用	5人	大学生 22名 高校生 12	3
⑦ 普及啓発事業	各事業についてのHPを開設しチラシ配布等により活動内容を紹介する。	随時	SRCビル 2F 多目的ホール	2人	不特定多数	10
⑧ 松戸市地域子ども・子育て支援事業 (おやこDE広場 旭町)	乳幼児・親子の集いの場所を提供する。	月 17回	松戸市 シニア交流センター3F	3人	1,297名 (前年+467名)	4,486

⑨ 松戸市地域子ども・子育て支援事業 (子育てコーディネーター)	おやこ DE 広場階催時、子育ての相談、子育て支援サービスの紹介、子育て支援機関との連携。	月 17回	松戸市 シニア交流 センター内	1人	松戸市および 近隣の市民 のべ 87名 (前年+5名)	2,236
⑩ 松戸市子どもの学習支援事業	小中学生に勉強を教えるだけでなく、居場所としての機能を持ち、学力向上を通して、自立する力を養う。	中学生 月・木 または 木・金 (週2回) 小学生 月・金	SRCビル 2F 多目的ホール	10人	のべ 950人 (中学生) のべ 196人 (小学生) (前年-514人)	10,263
⑪ 休眠預金事業 (令和3年4月～9月)	困窮家庭の社会的自立に向けて相談や居場所づくりを通じた支援を行う。	原則 月・火 木・土 週4回	新松戸 4-263 リバচইルーム	12人	20人	2,445
⑫ リバচই事業 (令和3年10月～ 令和4年3月)	休眠預金事業終了に伴い、事業名変更。	同上	同上	12人	20人	998
⑬ 本会計からの負担	休眠預金事業への助成対象外負担					10

計 22,632 千円

※千円未満切り捨てのため、
支出欄の合計と総計は一致しません。

3. 令和4年度（令和4年4月1日～令和5年3月31日）【計画】

事業名	実施日	実施場所	従事者の平均人數	受益対象者の範囲及び人數	収入の部（千円）	支出の部（千円）
①ユース事業	月20回	SRCビル2F 多目的ホール	2人	延べ：中学・高校生（2,050名）	0	15
②ゲットユアドリーム事業	年6回	松戸市立中	20名	中学生（1,000名）	1,070	920
③中高生の居場所づくり	週1回（年間50回）	青少年会館	3人	小・中・高生（1,500人）	1,370	1,200
④子育て支援事業 (子育てセミナー)	月1回 金曜日	SRCビル2階 及び3F	20人	延べ：松戸市及び近隣の市民（35名）	20	70
子育て支援事業 (リトミック)	月1回不定期	SRCビル2階 及び3F	4人	未就園児（20名）親含む	6	6
⑤Jボランティア事業	隨時	SRCビル2階、青少年会館	3人～5人 (オンライン)	延べ：中学・高校生（200名）・小学生以下1,000人	15	5
⑥普及啓発事業	随时	SRCビル2F 多目的ホール	3人	不特定多数	0	25
⑦おやこDE広場旭町 (松戸市委託事業)	月17回	シニア交流センター内	3人	延べ：（1,500名）	5,090	4,840
⑧学習支援事業	中学生180日 小学生90日	SRCビル2F 多目的ホール	10人	延べ：（1,000名）	9,931	8,581
⑨子育て支援 コーディネーター	月17回	シニア交流センター内	1人	延べ：（80名）	2,346	2,216
⑩リバちい事業	月4回 10:00-20:00	リバちい相談	8人	不特定多数	0	2,200
					19,848	20,078
会費・入会金収入					450	
補助金及び助成金収入・寄付金収入					3,196	
その他（管理費等）					0	2,300
収支総合計					23,494	22,378
						1,116

4. Jワールド 会員・賛助会員推移

		正会員	賛助会員	計
平成20年度	会員数	28	11	39
	会 費	54,000	72,000	126,000
平成21年度	会員数	26	12	38
	会 費	53,000	59,000	112,000
平成22年度	会員数	26	7	33
	会 費	53,000	33,000	86,000
平成23年度	会員数	24	16	40
	会 費	52,000	77,000	129,000
平成24年度	会員数	26	28	54
	会 費	54,000	147,000	201,000
平成25年度	会員数	28	33	61
	会 費	61,000	393,000	454,000
平成26年度	会員数	31	38	69
	会 費	71,000	321,000	392,000
平成27年度	会員数	31	110	141
	会 費	70,000	646,000	716,000
平成28年度	会員数	20	103	123
	会 費	61,000	536,000	597,000
平成29年度	会員数	20	106	126
	会 費	68,000	583,000	651,000
平成30年度	会員数	17	80	97
	会 費	59,000	360,000	419,000
平成31年度	会員数	23	72	95
	会 費	79,000	352,000	431,000
令和2年度	会員数	26	65	91
	会 費	94,000	276,000	370,000
令和3年度	会員数	26	82	108
	会 費	103,000	343,000	446,000